



令和7年1月29日
内閣府政策統括官(防災担当)

永田クラブ、経済研究会、国土交通記者会へ公表

国内最大級の防災イベント「第10回防災推進国民大会」の 開催会場・大会テーマをお知らせします

令和7年9月6日(土)、7日(日)に新潟県で開催される第10回防災推進国民大会(ぼうさいこくたい2025)の開催会場及び大会テーマについてお知らせします。出展や参加を御検討されている皆様、奮って御参加ください。

開催会場

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区万代島6番1号)

大会テーマ

語り合い・支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～
(別添参照)

※後日、改めて募集案内をお知らせいたします。

【参考】防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)について

平成27年3月の「第3回国連防災世界会議」で採択された「仙台防災枠組 2015-2030」では、自助・共助の重要性が国際的な共通認識とされ、これを踏まえて防災推進国民会議が発足しました。平成28年より、内閣府防災担当は、防災推進国民会議、以前から災害被害軽減の国民運動の推進を目的として活動している防災推進協議会と協力し、国民全体の防災意識を向上させることを目的として、ぼうさいこくたいを毎年開催しています。

なお、開催地は、平成28年は東京都(文京区)、平成29年は宮城県(仙台市)、平成30年は東京都(江東区)、令和元年は愛知県(名古屋市)、令和2年は広島県(広島市)、令和3年は岩手県(釜石市)、令和4年は兵庫県(神戸市)、令和5年は神奈川県(横浜市)、令和6年は熊本県(熊本市)でした。

本件問合せ先：内閣府政策統括官(防災担当) 付
参事官(普及啓発・連携担当) 付 大場、前田、藤原
TEL：03-3502-6984

語り合い・支え合い ～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

【開催趣旨】

- 日本は、地震、津波、大雨、台風、火山噴火、豪雪等様々な自然災害の影響を受けやすい環境にあり、特に、近年の自然災害は激甚化・頻発化し、毎年、各地で甚大な被害が発生しています。また、南海トラフ地震や首都直下地震等大規模災害の発生が懸念されています。
- 我が国はこれまで、災害が発生する都度、被災地での課題を洗い出し、経験と教訓を踏まえて、災害対応を進化させてきました。
- 災害による被害を最小限に防ぐ事前防災や復旧・復興において、近年は行政による「公助」の取組だけでなく、一人一人が自分の身は自分で守る「自助」、さらに地域で助け合う「共助」の取組が進んでいます。令和6年の能登半島地震でも、発災当初から様々な支援の手が、被災地へと差し伸べられました。
- 災害から一人一人の命を守り、より良い復旧、復興を遂げるには、ハード・ソフト両面の対応が必要であり、特に、平時からの地域コミュニティ、企業、ボランティアを始めとする様々な主体による、人的、物的両面での事前の備えや連携が重要です。
- 昨年の能登半島地震では、新潟県でも多くの被害が発生しました。また、新潟県は、新潟地震、中越地震、中越沖地震、豪雨水害、豪雪、火山噴火等様々な災害を経験してきましたが、その度にそれらを乗り越え、復興してきました。
- 10回目の節目を迎える2025年のぼうさいこくたいでは、「語り合い・支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～」をテーマに、中越地震等の様々な災害での新潟県の経験や教訓と、全国から集まっていただく方々の知恵や知識を織り交ぜ、次世代へ伝えていくことで、災害への備えにしたいと思えます。
- この「ぼうさいこくたい」を通じて、国民一人一人の防災意識がさらに向上し、人と人との結びつきや多様な主体の連携・協働がより強固なものとなり、我が国全体の防災力の向上につながっていくことを願っています。